

ニュース

整備進む地域の交通インフラ

幅 50m の拡張工事が本格化

総工費20億円、8月にも「第2段階へ」



▲ビルは道路側に約3m拡張、ビル前の歩道は現在の4mから7.5mに広げる



阿蘇くまもと空港

レンタカーの受付カウンターなどがあるビル東側ロビーの拡張工事が進む。太陽光発電システムは屋根の3分の2を覆う



▲空港ビル完成予想図。熊本城の長堀をイメージした外観になる予定だ



▶国交省大阪航空局が大型観光バス7〜8台の乗降場を整備する旧管制塔跡地



▲チケットロビー前に移動した駐車場入口。左写真は今年4月に設置した3階から2階への下りエスカレーター、左側

昨年8月に着工した熊本空港国内線ターミナルビルの増築工事が本格化している。2012年9月の完成に向け3段階に分けた工事は現在、第1段階となるビル東側の幅50mにわたる区間を駐車場側に拡張する工事が進む。施工する熊本空港ビルディング(株)(益城町)によると、5月現在の工事進捗率は28%。九州新幹線の全線開業による交流人口増大を見据えた総工費20億円の「大普請」はいよいよ形を見せ始めた。

今後のスケジュールは第1段階が今年7月末をめぐりに終了、第2段階がビル中央部からチケットロビーまでを8月から12年2月までに、第3段階は12年3月から9月まで同ロビーから空港ビル入口までの工事を進める。今回の増築は耐震補強やロビーの狭隘(きょうあい)化の解消を図るほか、エレベーターや下りエスカレーターの設置によるユニバーサルデザイン化や太陽光発電の導入で環境に配慮したターミナルビルを目指す。

植木バイパスの一部区間が開通

舞尾交差点の渋滞緩和へ



▲植木町鐘田の植木大橋(橋長約200m)。国道3号から県道玉名植木線に入ると、急カーブを経て同橋につながる



▲植木バイパスと国道208号の交差点。玉名方面(写真手前)からの車は右折してバイパスに入ることによって国道3号の舞尾交差点を回避できる



暫定2車線で開通した植木バイパス(植木町滴水付近)

国道3号植木バイパスの一部区間2.3kmが4月22日から供用を開始した。同時に同バイパスと国道3号を結ぶ県道玉名植木線の0.4kmも開通。荒尾・玉名方面、熊本方面の交通がバイパスに流れることで、舞尾交差点など現国道3号の渋滞緩和につながっている。

植木バイパスは、熊本北バイパスや熊本西環状線とも結ばれる主要幹線道路で、事業区間は四方寄町から舞尾までの5.6km。1999年度に国土交通省が事業に着手し、今回開通したのは、鐘田から舞尾の暫定2車線。開通区間の事業費は約86億円。

残り3.3kmに関しては、道路実施設計を行っており、今年度中には地元での説明会を始める予定。完成年度は未定。